

☆ 自殺対策推進研修を実施しました

8月22日（水曜日）、南多摩保健所では、自殺対策推進研修「生きづらさを抱える子どもへの支援を考えるパートⅡ～事例を通して、子どもへの支援と親への支援を考える～」を開催しました。当日は、小中学校の養護教諭・教諭等の学校関係者や、児童館・学童クラブ等の若年層関係機関の職員100名の参加がありました。講師は昨年に引き続き、駒木野病院児童精神科診療部長の笠原麻里医師をお招きしました。

研修の前半では子どもの発達や母子の関係について、子どもの死に対する概念等、基礎的なことを中心とし、後半では、支援が必要な子どもの親の心理や、その親をどう理解し、どのように支援に繋げるかということについて具体的な事例を交えながらお話いただきました。支援が必要な子どもを知ること、大人が気にかけていることを子どもに伝えていくことの重要性を再確認し、子どもを助けるための親支援について学ぶ機会となりました。

参加者からは、「事例や保護者への対応が特に勉強になった」「わかりやすく実践につながるものであった」等の感想が寄せられ、大変好評でした。

若年層の自殺率が依然として高い中、悩みを抱えた子どもについての理解を深めることが重要です。当所では今後も若年層の自殺対策を推進していきます。

